

福井県民の将来ビジョン 地区別意見交換会まとめ〔環境・自然保護〕

地区 テーマ	奥越	若狭	二州（敦賀市、美浜町）	坂井地区および永平寺町	丹南	福井
人づくり			○人づくりに関しては、いい意味での田舎化が必要。その時、将来の発展と矛盾しないようなバランスが必要。			
元気なコミュニティづくり	○コミュニティ維持のために、地域の伝統文化や行事の継承していくことが重要。					
環境	○小原ECOプロジェクトのような環境保全のビジネス化を支援する仕組みがあるとよい。 ○亀山や弁天等の桜の名所を保存する政策を行って欲しい。そのためには、長期的な視点に立ったランドデザインが必要。 ○サトイモ洗い機や用水の落差を利用した発電ができないか。	○地域住民の花の植栽活動を奨励するとよい。 ○以前、レストランで食べ残しの持ち帰り運動があったが、もっと身近で実践すべき。 ○CO2の削減に原子力発電は大きく貢献しており、嶺南地域が環境産業のメッカとなるような政策を推進して欲しい。	○耕作放棄地が増加し、豊かな自然が無くなることを危惧したのをきっかけに農事組合法人を立ち上げた。都市からの農業体験を受け入れ、交流を図ることで和が広がっていった。	○環境を良くするためにマイナス成長を受入れる社会を構築するのであれば、高度経済成長を景観した世代は、急に対応できないので、長いスパンの中で環境教育を取り入れシフトしていく必要がある。 ○風力発電建設には騒音などのデメリットもあり、他県のように民家からの距離などを定めた条例を整備して欲しい。	○ありのままの自然を体験できるグリーンツーリズムを希望する方が増えており、積極的に推進すべき。 ○環境と産業の両立は中小企業では困難。行政の支援が必要。	○林業は、森林の荒廃、後継者問題など危機的な状況にあるが、採集的には木材価格の低下に行き着く。木の価格は安くてもよいが、県産材の積極的に使用して欲しい。 ○農業は、村、まちに産業を興すという視点が必要。生産から販売、地産地消、環境産業、観光までを含めた立体的な農業モデル地区づくりを進めるべき。 ○環境保全に対して県民の意識レベルに差がある。腰を落着けた着実な取り組みが必要。 ○CO2排出は家庭の方が高く、環境保全を高めてCO2削減に取り組むべき。
まちづくり		○ふるさと教育やふるさとへの愛着とまちの景観をどのように保存するかは深い関わりがある。特色ある景観づくりを進めるべき。 ○祭りがある地域には人が育ち、活気のある地域に育った子どもは、将来、客を連れてきたり、戻ってくる。まちづくり（祭り等）を通じた人づくりを実践するべきである。			○雑誌のアンケートによると、福井県は日本で一番印象の薄い県、即ち、福井県自体にパワーが無いと言える。パワーがないなら人を呼び込むべきで、田舎を売り込む方策を考えることが大事。	
産業	○観光のトレンドは、見物型から体験型、さらに今後は、長期滞在実践型に変わり、何処に行くかだけでなく、行った先で何をすることが重要視されるだろう。 ○国の農業政策の変化が激しく対応できない。県でわかりやすくまとめて説明するなり、極端な変更を和らげることができないか。規模拡大や低コスト化で後継者が農業を継ぐことが大事。	○ここ10年間、材価が下落し、林業をやる気が出ない。10年後の材価を保証できるようなビジョンを示して欲しい。 ○農業においては、水田における戸別所得補償の導入によって園芸が少なくなるのではないかと心配である。今の制度では、皆が米や穀類の生産に流れる。国政が変わっても県が頑張る姿勢を示し、米と園芸を両輪として進めてほしい。		○10年後を考えた時、農業従事者の確保と農業所得を増やすための方策が課題。 ○観光において、「健康長寿」を売りにした戦略を継続すべき。		